

# 総合人間科学系 全学教育センター

## 植物の繁殖器官を利用する 昆虫の生態と多様性の解明

環境科学関連の講義・演習科目を担当しています。

専門は生物多様性科学、昆虫生態学。季節性の乏しい東南アジア熱帯雨林では、日本に分布しているような1年周期で開花・結実する植物は稀で、高木層を構成している樹種の多くは数年に1度しか花を咲かせません。また、低木層を構成している植物種の大半は、いつ・どれくらいの頻度で花を咲かせるのか未だ明らかになっていません。そこで、マレーシアのボルネオ島を主な調査地として、植物の繁殖頻度とそれら植物の繁殖器官を利用している昆虫の生態について地道な野外調査により研究を進めています。

人文・社会・環境科学  
教育部門

研究から広がる未来



浅野 郁 講師

名古屋大学農学部生物環境科学科卒業。京都大学大学院人間・環境学研究所修士課程卒業後、同大学院博士課程修了（博士・人間・環境学）。2019年に信州大学全学教育機構（現・全学教育センター）に着任。

「生物多様性はなぜ大切なのか？」と疑問を抱く人は多いですが、「文化財はなぜ大切なのか？」と疑問にもつ人は少ないのではないでしょうか。それぞれの生物種は、長い進化の“歴史”をもち、“唯一無二”の存在であり、“資源”としての有用性も保持しています。生物多様性に関する基礎情報が蓄積されることで、多くの文化財と同様、大勢の人々にその重要性を認識してもらえると期待しています。

卒業後の未来像

私たち“ヒト”も陸上生態系を構成している1種です。生物学を学ぶということは、私たちヒトについても理解を深めることに繋がります。生物学的視点から人間社会を俯瞰することで、環境問題を含む様々な社会問題についても新たな気づきが生まれるでしょう。



東南アジア低地熱帯雨林を構成する樹種の中で優占する分類群の1つであるフタバガキ科の種子とその種子を主要な餌資源とする昆虫。



環境マインド実践ゼミⅡ マレーシア演習旅行の様子。オランウータンの保護活動について現地スタッフの説明を受けている。